

製品名: ギルディン (リン酸化 Ser1417) ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab04731

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:5000-1:10000

分子量

抗原情報

遺伝子名	CCDC88A
別名	CCDC88A; APE; GRDN; KIAA1212; Girdin; Akt phosphorylation enhancer; APE; Coiled-coil domain-containing protein 88A; G alpha-interacting vesicle-associated protein; GIV; Girders of actin filament; Hook-related protein 1; HkRP1
遺伝子 ID	55704.0
SwissProt ID	Q3V6T2
免疫原	抗血清は、Ser1417 のリン酸化部位周辺のヒト Girdin 由来の合成ペプチドに対して作製された。 アミノ酸範囲: 1383-1432

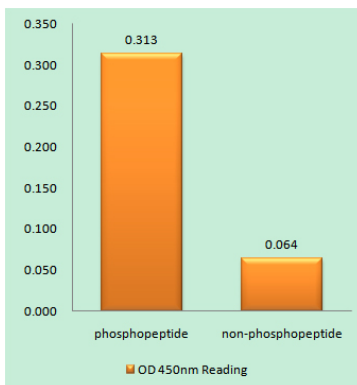
背景

この遺伝子は、コイルドコイルドメイン含有タンパク質である Girdin ファミリーのメンバーをコードしています。コードされているタンパク質はアクチン結合タンパク質であり、セリン/スレオニンキナーゼ Akt によって活性化され、細胞骨格リモデリングおよび細胞遊走に関与しています。また、コードされているタンパク質は、成長因子受容体チロシンキナーゼおよび G タンパク質共役受容体によるホスホイノシチド 3 キナーゼ (PI3K) 依存性 Akt 活性化を媒介することにより、Akt シグナル伝達を増強します。この遺伝子の発現増加およびコードされているタンパク質のリン酸化は、癌転移において役割を果たしている可能性があります。この遺伝子には、複数のアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが観察されています。 [RefSeq 提供、2011 年 12 月]、機能: AKT1/PKB のホスホイノシチド 3 キナーゼ (PI3K) 依存性リン酸化およびキナーゼ活性を増強しますが、キナーゼ活性自体は有しません。 AKT1/PKB のリン酸化は、下流のエフェクターである GSK3 および FOXO1/FKHR のリン酸化を誘導し、DNA 複製および細胞増殖を制御します (類似性による)。アクチン細胞骨格の完全性と細胞移動に必須です。アクチンストレスファイバーおよびラメリポディアの形成に必要です。初期エンドソームにおける膜選別に関与している可能性があります。、PTM: リン酸化は、ホスホイノシチド 3 キナーゼ (PI3K) 依存的に上皮成長因子 (EGF) によって誘導されます。 AKT1/PKB によるリン酸化は、細胞膜からの脱局在化および細胞移動に必要です。、配列注意: C 末端にイントロンが保持されます。、類似性: CCDC88 ファミリーに属します。、細胞内局在: ホスホイノシチドとの相互作用を介して細胞膜に局在します。、サブユニット: ホモ二量体。非リン酸化型はホスファチジルイノシトール 4-リン酸[PI(4)P]と相互作用し、ホスファチジルイノシトール 3-リン酸[PI(3)P]とは弱く相互作用する。微小管と相互作用する。アクチンとは C 末端ドメインを介して相互作用する。 AKT1/PKB の C 末端と相互作用する。、組織特異性: 普遍的に発現する。、

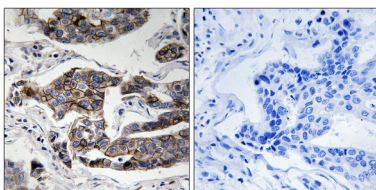
研究分野

神経科学

画像データ



リン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) に対する酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)、Girdin (リン酸化 Ser1417) 抗体使用



Girdin (リン酸化 Ser1417) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。